

携帯電話、スマートフォンなどの携帯型情報通信機器や、デジタルビデオカメラ、デジタルスチルカメラ、携帯オーディオなどの携帯型AV機器に数多く使用されており、下面電極タイプ251型の低背品を開発しました。
251型Tシリーズは、携帯型マルチメディア機器の超小型・超低背・高性能化に大いに貢献します。

特長

1. 下面電極構造を採用することにより、端子とほぼ同じ大きさでランド寸法を設計できるため部品の小型化と合わせて、実装面積を従来構造比1/2~1/3に小さくすることが可能になります。
2. 高さ0.6mm、0.8mmの超低背寸法に対応しています。
3. 1608~3216サイズにて0.68~68 μ Fの広い容量範囲に対応しています。
4. DVC、DSC、PCMCIAカードなどの小型電子機器及び携帯電話・スマートフォンなどの高性能小型携帯機器への用途に最適です。
5. 本製品のMケース（下面電極タイプ1608）、Sケース（下面電極タイプ2012）は、JEITA/電子デバイス登録センター表面実装部品登録制度による登録名です。
6. RoHS指令対応、完全鉛フリー品です。

定格

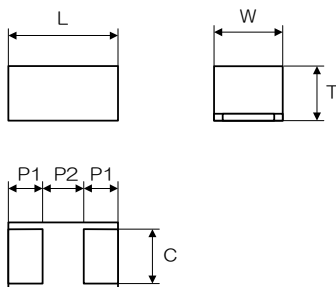
項目	定格	備考
カテゴリー温度範囲（使用温度範囲）	-55~+125 $^{\circ}$ C	85 $^{\circ}$ Cを超える場合は軽減電圧にて使用 (125 $^{\circ}$ Cにおいて2/3 \times 定格電圧)
定格温度（定格電圧使用最高温度）	+85 $^{\circ}$ C	
定格電圧	4~25VDC	標準品一覧表による
定格静電容量（公称静電容量）	0.68 ~ 68 μ F	
定格静電容量許容差	\pm 20% (M)	
故障率水準	1%/1000h	85 $^{\circ}$ C、定格電圧印加 1000h、回路抵抗0.5 Ω /V

形名の構成

251 品種名		T シリーズ	6301 定格電圧		106 定格静電容量		M 定格静電容量許容差	R 形状記号	O6M ケース記号		
電圧表記	定格電圧	容量表記	静電容量	許容差記号	定格静電容量許容差	形状記号	リール	極性	ケース記号	製品高さ寸法max. (mm)	EIA Code
4001	4DVC	684	0.68 μ F	M	\pm 20%	R	ϕ 180	送り穴側 -	O6M	0.6	1608
6301	6.3DVC	155	1.5 μ F						O6S	0.6	2012
1002	10VDC	225	2.2 μ F						O8S	0.8	2012
2502	25VDC	335	3.3 μ F						O6A	0.6	3216
		475	4.7 μ F								
		106	10 μ F								
		156	15 μ F								
		226	22 μ F								
		336	33 μ F								
		476	47 μ F								
		686	68 μ F								

(テーピング仕様)

外形寸法

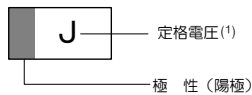


ケース記号	製品高さmax. (mm)	L \pm 0.1	W \pm 0.1	T \pm 0.1	P ₁ \pm 0.1	P ₂ \pm 0.1	C \pm 0.1
O6M	0.6	1.6	0.85	0.5	0.5	0.65	0.7
O6S	0.6	2.0	1.25	0.5	0.5	1.05	0.9
O8S	0.8	2.0	1.25	0.7	0.5	1.05	0.9
O6A	0.6	3.2	1.6	0.5	0.8	1.65	1.2

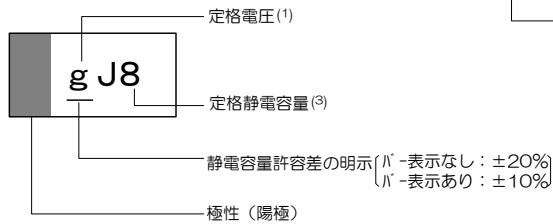
「定格によって、製品の長さ寸法が異なります。詳細については標準品一覧表を参照してください。」

表示

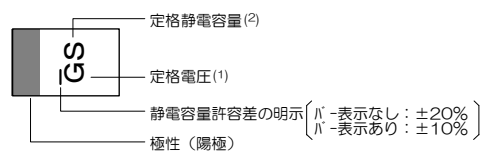
[06Mケース]



[06Aケース]



[06S, 08S ケース]



(1) 定格電圧は、1 英文字により表す。

定格電圧 VDC	4	6.3	10	25
定格電圧記号	G	J	A	E

*A ケースは、g (4V)、j (6.3V) の小文字記号です。

(2) 定格静電容量は、1 英文字または、この 1 英文字の上部もしくは下部へバーをつけて表す。

定格静電容量	1	1.5	2.2	3.3	4.7	6.8
定格静電容量記号	A	E	J	N	S	W

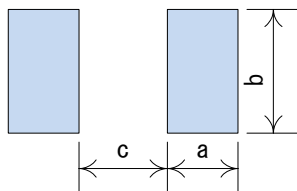
上記以外の容量を表す記号は、 $_$ (1/10)、 $_$ (10 倍)、 $_$ (100 倍) を用いる。

(ex. $_$ J は J(2.2) の 1/10 で 0.22 を示す)

(3) 定格静電容量は、1 英文字と 1 数字により表す。

記号	N6	S6	W6	N6	S6	W6
定格静電容量値 μ F	3.3	4.7	6.8	3.3	4.7	6.8
記号	A7	E7	J7	N7	S7	W7
定格静電容量値 μ F	10	15	22	33	47	68

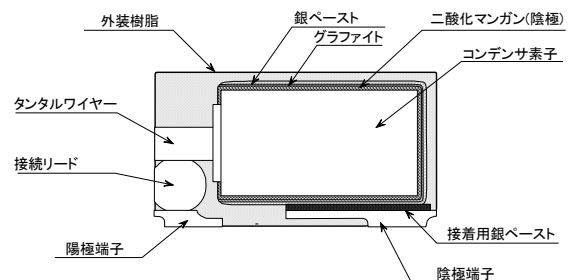
推奨取り付けランド



Case Size	a	b	c	マスク厚 (mm)
06M	0.50以上	0.65	0.65	$\leq 100 \mu\text{m}$
06S, 08S	0.50以上	0.8	1.05	$\leq 100 \mu\text{m}$
06A	0.80以上	1.1	1.65	$\leq 100 \mu\text{m}$

適正なはんだ付けのため、コンデンサの自己位置修正効果（セルフアライメント）を大きくするには、ランド巾は端子形状巾に、またランド間隔は端子間隔に近い寸法が有効です。

構造概要（代表例）



標準品定格電圧・静電容量別ケースサイズ

R.V.(VDC) Cap. (μ F)	4	6.3	10	25
0.68				06M
1.5				06S
2.2				08S
3.3				06A
4.7			06M	
10		06M	06S	
15	06M		08S	
22		06S	06A	
33	06S	08S		
47	08S	06A		
68	06A			

性能

No	項目	性能	試験方法
1	漏れ電流 (μA)	0.01CV又は0.5のいずれか大きな値以下	JIS C 5101-1 4.9項 印加電圧：定格電圧 印加時間：5分間 測定温度：常温
2	静電容量	規定の許容差以内	JIS C 5101-1 4.7項 測定周波数：120Hz±20% 測定電圧：0.5Vrms+1.5~2VDC 測定温度：常温
3	損失角の正接	標準品一覧表に示す値以下	JIS C 5101-1 4.8項 測定周波数：120Hz±20% 測定電圧：0.5Vrms+1.5~2VDC 測定温度：常温
4	等価直列抵抗	標準品一覧表に示す値以下	測定周波数：100Hz±10% 測定電圧：0.5Vrms以下 測定温度：常温
5	高温及び低温特性		JIS C 5101-1 4.29項
	段階 1	漏れ電流 静電容量 損失角の正接	No1に示す値以下 規定の許容差以内 No3に示す値以下
	段階 2	静電容量変化率 損失角の正接	次の区分のいずれかとし、標準品一覧表により指定する。 ・段階1の値の 0 %以内、 ・段階1の値の -30 %以内 標準品一覧表に示す値以下
	段階 3	漏れ電流 静電容量変化率 損失角の正接	No1に示す値以下 段階1の値の±2%以内 No3に示す値以下
	段階 4	漏れ電流 静電容量変化率 損失角の正接	次の区分のいずれかとし、標準品一覧表により指定する。 ・0.1CVまたは5のいずれか大きな値以下 ・0.2CV以下 次の区分のいずれかとし、標準品一覧表により指定する。 ・段階1の値の 0 %以内、 ・段階1の値の 20 %以内 標準品一覧表に示す値以下
	段階 5	漏れ電流 静電容量変化率 損失角の正接	次の区分のいずれかとし、標準品一覧表により指定する。 ・0.125CVまたは6.3のいずれか大きな値以下 ・0.25CV以下 次の区分のいずれかとし、標準品一覧表により指定する。 ・段階1の値の 0 %以内、 ・段階1の値の 20 %以内 標準品一覧表に示す値以下
6	サージ	漏れ電流	次の区分のいずれかとし、標準品一覧表により指定する。 ・No1に示す値以下 ・No1に示す値の2倍以下
		静電容量変化率	次の区分のいずれかとし、標準品一覧表により指定する。 ・試験前の値の±15%以内、 ・試験前の値の±20%以内
		損失角の正接 外観	No3に示す値以下 著しい異常がないこと
7	固着性	外観に損傷がないこと。	JIS C 5101-1 4.34項 JIS C 5101-1 4.33項により、次の条件で実装したものを 試料とする。 ・間接加熱方法 (リフロー) ・温度：240±10℃/時間：10秒以内 加圧力：5N 保持時間：10±1秒間
8	耐プリント板曲げ性	静電容量 外観	測定中、測定値が安定していること。 外観に損傷がないこと。
9	振動	静電容量 外観	測定中、測定値が安定していること。 外観に損傷がないこと。
10	衝撃		0.5ms以上の断続的接続又はショートあるいはオープンなどないこと。 また火花放電、絶縁破壊あるいは機械的損傷がないこと。
11	はんだ付け性		端子にはんだが良好に付着 (ピンホール、ぬれ不良及びはんだはじきがない) していること。
12	はんだ耐熱性	漏れ電流 静電容量変化率 損失角の正接 外観	IRリフロー法 プレヒート：130~160℃、約60秒 リフロー：200℃、60秒未満 260℃ max リフロー回数：2回
13	部品の耐溶剤性	漏れ電流 静電容量変化率 損失角の正接	No1に示す値以下 試験前の値の±15%以内 No3に示す値以下
14	表示の耐溶剤性	外観	表示が明瞭であること
15	温度急変	漏れ電流 静電容量変化率 損失角の正接 外観	JIS C 5101-1 4.31項 試験温度：23±5℃ 浸せき時間：5±0.5分間 試験の種類：JIS C 0052の方法2による 試薬の種類：2-プロパノール (イソプロピルアルコール)
16	高温高温[正常]	漏れ電流 静電容量変化率 損失角の正接 外観	JIS C 5101-1 4.32項 試験温度：23±5℃ 浸せき時間：5±0.5分間 試験の種類：JIS C 0052の方法1による 試薬の種類：2-プロパノール (イソプロピルアルコール) ラビング材料：綿毛
17	耐久性	漏れ電流 静電容量変化率 損失角の正接 外観	JIS C 5101-1 4.16項 はんだの温度：235±5℃ 浸せき時間：±0.5秒 浸せき深さ：端子部をはんだ槽へ浸せきする。
18	高温急変	漏れ電流 静電容量変化率 損失角の正接 外観	No1に示す値の2倍以下 次の区分のいずれかとし、標準品一覧表により指定する。 ・試験前の値の±15%以内、 ・試験前の値の±20%以内 No3に示す値の150%以下 外観に損傷がないこと。
19	高温高温[正常]	漏れ電流 静電容量変化率 損失角の正接 外観	No1に示す値の2倍以下 次の区分のいずれかとし、標準品一覧表により指定する。 ・試験前の値の±15%以内、 ・試験前の値の±20%以内 No3に示す値の150%以下 外観に損傷がなく、表示が明瞭であること。
20	耐久性	漏れ電流 静電容量変化率 損失角の正接 外観	No1に示す値の2倍以下 次の区分のいずれかとし、標準品一覧表により指定する。 ・試験前の値の±15%以内、 ・試験前の値の±30%以内 No3に示す値の150%以下 外観に損傷がなく、表示が明瞭であること。

形名 ⁽¹⁾	定格電圧		カージ電圧 VDC	静電容量 μF	許容差 ±%	カ-入 記号	漏れ電流 μA			静電容量変化率 (ΔC/C)%			損失角の正接			ESR Ω 100kHz	サージ		はんだ 耐熱性 漏れ電流 (A) ΔC/C%	温度急変 高温高温 ΔC/C%	耐久性 ΔC/C%
	85C	125C					20C	85C	125C	-55C	85C	125C	20C	85C	125C		-55C	20C			
251 T 4001 156 M ₁ 06 M	4	4.6	3	15	20	06M	0.6	12	15	0/+20	0/+20	0.30	0.15	0.30	0.30	B	±20	±20	±30		
251 T 4001 336 M ₁ 06 S	4	4.6	3	33	20	06S	1.3	26	33	-30/0	0/+20	0.30	0.15	0.30	0.30	B	±20	±20	±30		
251 T 4001 476 M ₁ 08 S	4	4.6	3	47	20	08S	1.9	38	47	-30/0	0/+20	0.40	0.20	0.40	0.40	B	±20	±20	±30		
251 T 4001 686 M ₁ 06 A	4	4.6	3	68	20	06A	2.7	54	68	-30/0	0/+20	0.36	0.18	0.30	0.30	B	±20	±20	±30		
251 T 6301 106 M ₁ 06 M	6.3	7.2	4.8	10	20	06M	0.6	13	16	-30/0	0/+20	0.30	0.15	0.30	0.30	B	±20	±20	±30		
251 T 6301 226 M ₁ 06 S	6.3	7.2	4.8	22	20	06S	1.4	28	35	-30/0	0/+20	0.30	0.15	0.30	0.30	B	±20	±20	±30		
251 T 6301 336 M ₁ 08 S	6.3	7.2	4.8	33	20	08S	2.1	42	52	-30/0	0/+20	0.40	0.20	0.40	0.40	B	±20	±20	±30		
251 T 6301 476 M ₁ 06 A	6.3	7.2	4.8	47	20	06A	3.0	59	74	-30/0	0/+20	0.32	0.16	0.32	0.32	B	±20	±20	±30		
251 T 1002 475 M ₁ 06 M	10	11.5	7.6	4.7	20	06M	0.5	10	13	-30/0	0/+20	0.24	0.12	0.24	0.24	B	±20	±20	±30		
251 T 1002 106 M ₁ 06 S	10	11.5	7.6	10	20	06S	1.0	20	25	-30/0	0/+20	0.16	0.08	0.16	0.16	B	±20	±20	±30		
251 T 1002 156 M ₁ 08 S	10	11.5	7.6	15	20	08S	1.5	30	38	-30/0	0/+20	0.30	0.15	0.30	0.30	B	±20	±20	±30		
251 T 1002 226 M ₁ 06 A	10	11.5	7.6	22	20	06A	2.2	44	55	-30/0	0/+20	0.24	0.12	0.24	0.24	B	±20	±20	±30		
251 T 2502 684 M ₁ 06 M	25	28.7	19.1	0.68	20	06M	0.5	5	6.3	-15/0	0/+10	0.16	0.08	0.08	0.08	B	±15	±15	±15		
251 T 2502 155 M ₁ 06 S	25	28.7	19.1	1.5	20	06S	0.5	5	6.3	-15/0	0/+10	0.12	0.06	0.12	0.12	B	±15	±15	±15		
251 T 2502 225 M ₁ 08 S	25	28.7	19.1	2.2	20	08S	0.6	5.5	6.9	-15/0	0/+10	0.12	0.06	0.12	0.12	B	±15	±15	±15		
251 T 2502 335 M ₁ 06 A	25	28.7	19.1	3.3	20	06A	0.8	8.0	10	-15/0	0/+10	0.12	0.06	0.12	0.12	B	±15	±15	±15		

注 (1) _¹には、単品は記号なし、テーピング仕様は形状記号 Rが入ります。

注 (2) 漏れ電流 A：初期規格値以下、B:初期規格値の2倍以下

⚠ 使用上の注意事項（チップ形タンタル固体電解コンデンサ）

1. 使用電圧について

タンタル固体電解コンデンサは定格電圧以下でご使用ください。

- ・ 定格電圧：定格電圧とは、定格温度でコンデンサの端子間に連続して印加することができる直流電圧の最大値をいいます。
- ・ サージ電圧：サージ電圧とは、定格温度または最高使用温度でコンデンサに瞬間的に印加できる電圧で、6分の周期で1000Ωの直列抵抗を通して30秒間印加するサイクルを1000回繰り返したとき、耐えることのできる電圧をいいます。

回路設計に際しては、機器の要求信頼度を考慮して適切な電圧軽減をしてください。

2. 交流成分を含む回路に使用する場合

以下の3項目について特にご注意ください。

- (1) 直流電圧および交流電圧せん頭値の和が定格電圧を超えないこと。
- (2) 交流の半サイクルで許容値を超えた逆電圧がかからないこと。（3項参照）
- (3) リプル電流は許容値を超えないこと。

3. 逆電圧について

タンタル固体電解コンデンサは有極性ですので逆電圧を印加しないで下さい。なお、コンデンサの両端をテスター等でチェックされる場合はテスターの電位（極性）を事前に確認して下さい。

4. 許容リプル電流

100kHz付近あるいはそれ以上でご利用になる場合の許容リプル電流および電圧は、各ケースサイズ毎の表1の許容電力損失値（Pmax値）とESR規格値から、以下の式で求めることができます。ただし、予想動作温度が室温以上の場合は、Pmax値に所定の乗数（表2）をかけて許容値を計算して下さい。また、異なる周波数の場合は弊社の乗数（表2）をかけて許容値を計算して下さい。また、異なる周波数の場合は弊社営業担当へお問い合わせください。

$$P = I^2 \times ESR \text{ または } P = \frac{E^2 \times ESR}{Z^2} \text{ より、}$$

$$\text{許容リプル電流 } I_{max} = \sqrt{\frac{P_{max}}{ESR}} \text{ (Arms)}$$

$$\begin{aligned} \text{許容リプル電圧 } E_{max} &= \sqrt{\frac{P_{max}}{ESR}} \times Z \\ &= I_{max} \times Z \text{ (Vrms)} \end{aligned}$$

ここで、

- I_{max} 規定周波数での許容リプル電流（Arms：実効値）
- E_{max} 規定周波数での許容リプル電圧（Vrms：実効値）
- P_{max} 許容電力損失（W）
- ESR 規定周波数でのESR規格値（Ω）
- Z 規定周波数でのインピーダンス（Ω）

表1 ケースサイズ毎の許容電力損失

ケースサイズ	Pmax (W)
06M	0.049
06S	0.059
08S	0.059
06A	0.073

表2 各動作温度でのPmaxの乗数

動作温度（℃）	乗数
25	1.0
55	0.9
85	0.8
125	0.4

注 この値は0.8tのガラスエポキシ基板に実装した状態で大気中にて計測した実験値であり、基板の種類、実装密度、空気の流れ状態等により変わる場合がありますので、計算された電力損失値が本表のPmaxと同程度になる場合には弊社営業担当へお問い合わせください。

5. 低インピーダンス回路での使用について

0.1Ω/Vの低インピーダンス回路の故障率は1Ω/Vの場合の故障率に比較して約5倍となります。電源フィルタ特にスイッチング電源用その他ノイズバイパス用等の低インピーダンス回路にタンタルコンデンサをご使用の際は、低インピーダンスによる故障率増大を防ぐための使用電圧がコンデンサの定格電圧の1/2以下（1/3以下推奨）になるような定格を選定ください。

6. バイポーラ接続での使用について

バイポーラ接続での使用はできません。

7. はんだ付け

7.1. プレヒート

コンデンサの信頼性を向上させるには、はんだ付け時に加わる熱衝撃をゆるやかにするのが有利です。130℃～200℃（60～120秒）のプレヒートを必ず行ってください。

7.2. はんだ付け

コンデンサ本体温度が260℃を超えない条件のもとで、はんだ付けを行ってください。

(1) リフロー

基板面にクリームはんだを印刷塗布し、コンデンサを装着して加熱する方法で、加熱方法により直接加熱と雰囲気加熱に区分されます。

・直接加熱（ホットプレート）

基板を直接加熱板に載せる方法です。コンデンサは一般的に常温の大気中にさらされており、加熱または基板温度より低くなります。

・雰囲気加熱

a) VPS（ベーパーフェーズソルダーリング）

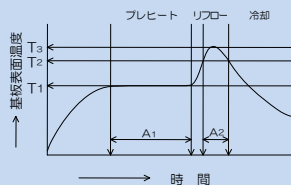
高沸点不活性液体の蒸気により加熱する方法で、コンデンサ本体と基板はほぼ同一温度で上昇し、雰囲気温度に達します。温度は240℃以下にセットしてください。

b) 近赤外、遠赤外線加熱

条件によってはコンデンサ本体が熱吸収のため内部温度は設定温度より20～30℃高くなり、260℃を超えることもあります。コンデンサ本体の内部温度が260℃を超えないよう炉の温度設定は必ず低めにするが、空気あるいは窒素循環（c項参照）を併用してください。

c) 循環式加熱炉

主な加熱源は赤外線ですが、加熱された空気、窒素あるいは不活性ガスを循環することにより、基板と製品がほぼ同じ温度に加熱できる方法です。



温度	時間
T1=130℃～200℃	A1：60～120秒
T2=220℃～230℃	A2：60秒以下
T3=～260℃	10秒以下

回数：2回Max

(2) はんだごて

温度および時間制御が困難であり、はんだごてによる取付け修正は推奨出来ません。やむを得ず行う場合は、コンデンサ本体の端子部にはんだごてをあてないようにして、350℃以下、5秒以内の条件ですみやかにはんだ付けを行ってください。

(3) その他各種の方法がありますので、ご使用にあたっては当社営業にご相談ください。

8. 溶剤洗浄

有機溶剤を用いた洗浄では、その洗浄効果だけを追及することは、コンデンサの外観、機能を損ねる場合があります。当社のコンデンサは2-プロパノールに、20~30℃にて5分間浸せきされても影響はありませんが、新しい洗浄方式の導入又は、洗浄条件の変更等に際しましては当社営業にご相談ください。

9. 樹脂モールド

基板組立後、樹脂注型などでモールドされると、樹脂硬化にともなう発熱および硬化応力、さらにはその後の温度変化によって生じる内部応力により故障の原因となることがありますので、樹脂およびハッパコートは選定は十分事前テストの後行ってください。

10. 振動、落下衝撃

コンデンサを高さ1mのところからコンクリートの床に落下させますと約300Gの過大な衝撃力が加わります。落下させた製品の全てが故障する性質のものではありませんが、故障の原因となり、機器の信頼性を低下させる確率が高くなります。

11. 超音波洗浄

過酷な超音波条件で洗浄を行うと端子が切断されることがあります。また電気的特性面からも好ましくありませんので、出来る限り使用しないでください。もし使用される場合は以下の配慮をお願いします。

(1) 溶剤を沸騰状態にしないでください。(超音波出力を下げるか、沸点の高い溶剤を使用してください)

(2) 超音波出力0.5W/cm²以下にしてください。

(3) 洗浄時間は極力短くし、かつ試料は揺動させてください。

なお、ご使用に際しては当社営業にご相談ください。

12. その他注意事項

- ・コンデンサを2個以上直列接続する場合、個々のコンデンサに電圧が均等に分圧できる抵抗器を並列に接続してください。
- ・実装スペースの制約などによるコンデンサの外装材の切削加工は行なわないでください。
- ・セットのエージングの条件は、コンデンサの定格以下で実施してください。
- ・セット稼働中にコンデンサに直接触れないでください。
- ・コンデンサを分解しないでください。
- ・コンデンサの両端子をテスター等でチェックする場合は、テスターの電位(極性)を事前に確認してください。通電中に電極を当ててチェックする場合には、他の部品等の端子に触れないようにしてください。
- ・セットの使用時、発火、発煙及び異臭が生じた場合、セットの電源を切るか又は電源コードをコンセントからぬいてください。燃焼した場合は顔や手を近づけないでください。
- ・コンデンサがショートをすると高温になり、コンデンサ素子のタンタルが発火する場合があります。この際プリント配線板等を焼損するおそれがあります。
- ・コンデンサは直射日光や埃にさらさないよう梱包した状態で常温常温で保管してください。取り決めた保管期間を経過したコンデンサは、協議の上処置してください。
- ・通電されない状態でのご使用機器は、常温・常温で保管してください。高温度の雰囲気で使用される場合は、防湿処理を行ってください。また、コンデンサ周囲に結露するような使用は避けてください。活性なガス中での使用はコーティング等で、直接ガスがコンデンサに触れないようにしてください。酸やアルカリの雰囲気での使用は避けてください。
- ・コンデンサは各種の金属および樹脂より構成されていますので廃棄にあたっては産業廃棄物として処置してください。
- ・サンプルとしてお求めになったコンデンサは、市販機器に使用しないでください。サンプルは、特定用途(形状見本、電気特性確認用等)に提供しております。

この使用上の注意事項は、電子情報技術産業協会(JEITA)発行の「電子機器用固定タンタル固体電解コンデンサの使用上の注意事項」(EIAJ RCR-2368)を参考に作成いたしました。注意事項の詳細(解説・理由・具体例等)につきましては上記を参照されるか、当社営業担当へお問い合わせください。

NCC 松尾電機株式会社



タンタル固体電解コンデンサに関するご相談は下記へお問い合わせ下さい。

東日本営業 : 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1丁目10番1号(サクラビル) TEL(03)3295-8800 FAX(03)3295-4213
中部日本営業 : 〒446-0074 愛知県安城市井杭山町一本木5番10号(碧海ビル3F) TEL(0566)77-3211 FAX(0566)77-1870
西日本営業 : 〒561-8558 大阪府豊中市千成町3丁目5番3号 TEL(06)6332-0883 FAX(06)6332-0920
海外営業 : 〒561-8558 大阪府豊中市千成町3丁目5番3号 TEL(06)6332-0883 FAX(06)6332-0920
ホームページURL : <https://www.ncc-matsuo.co.jp/>

当カタログの掲載内容は、予告なく変更することがありますので、ご使用にあたっては、弊社営業担当へお問合せの上、仕様のご確認をお願いします。